



外務省委託

平和構築・開発における グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

令和2年度事業活動レポート

2020



Be a peacebuilder!

不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC)

＜広島本部事務所＞

〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-61ナレッジスクエア1階

＜東京事務所＞

〒102-0083 東京都千代田区麹町1-4-4 2階

TEL 082-909-2631 FAX 082-553-0910

URL <https://peacebuilderscenter.jp>

コピーライト(C) 外務省

デザイン・編集 一般社団法人広島平和構築人材育成センター (HPC)

発行 令和3年3月

広島平和構築人材育成センター

Hiroshima Peacebuilders Center (HPC)

本事業に至るまで

紛争に苦しむ国々に対し、平和の定着や国づくりのための協力を強化し、日本の国際協力の柱とするための検討を行うため、平成14(2002)年「国際平和協力懇談会」(明石康・座長)で報告書がとりまとめられました。

また、平成18(2006)年8月、国連大学で開催された「平和構築を担う人材とは・アジアにおける平和構築分野の人材育成に関するセミナー」で「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」の立ち上げが表明されました。これを受け、平成19(2007)年に「平和構築分野の人材育成のためのパイロット事業」が開始され、平成21(2009)年から「平和構築人材育成事業」として本格事業化しました。その後、平和構築分野の人材育成に関する取組を強化するため、「平和構築分野に関する有識者懇談会」(波多野敬雄 学習院院長・座長)が議論を重ね、平成26(2014)年4月に岸田外務大臣(当時)に行った提言を受けて、平成27(2015)年から「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」として本事業が実施されました。平成30年度の外務省による企画競争の結果、広島平和構築人材育成センター(Hiroshima Peacebuilders Center: HPC)は令和2年度までの事業を担当しました。これによりHPCは、平成19年から通算14年間本事業を実施してきました。

これまで実施してきた「プライマリー・コース」に加え、「ミッドキャリア・コース」も実施しています。プライマリー・コースの海外派遣は、国連ボランティア計画(United Nations Volunteers programme: UNV)が実施しました。本事業の修了生は世界各地の国連機関・国際機関の本部および現地事務所、政府機関、NGO等の現場で活躍しています。

広島平和構築人材育成センター(HPC)



広島平和構築人材育成センターは、平和構築分野の人材育成、調査・研究などの事業を目的として創設された一般社団法人です。令和2(2020)年度外務省「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の各研修コースやキャリア構築支援の実施団体で、過去13年間の事業運営経験を活かしながら本事業を実施しました。

広島復興の精神を基盤にして、日本の平和主義を反映させながら、世界平和に貢献する人材のキャリア構築を支援する活動を行っています。平和構築・開発援助・人道援助の専門家コミュニティのハブとなることを目指しています。

国連ボランティア計画(UNV)

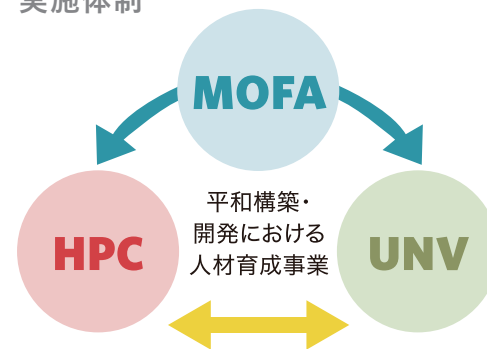


国連ボランティア計画(UNV)は世界的なボランティア活動を通して、平和と開発に貢献しています。

UNVはパートナーと協働して、価値があり、意欲が高く、十分にサポートされている国連ボランティアを開発プログラムに統合し、ボランティア活動の価値と世界的な認識を促進します。UNVは「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」の事業実施パートナーとして、事業の「海外派遣」部門の運営管理を行っています。UNVは毎年およそ130カ国で活動しています。そのうち約60カ国がフィールドとなっており世界中に広がっています。UNVは、国連開発計画(UNDP)によって管理され、国連開発計画理事会に報告しています。

平和構築・開発の担い手を育てます

実施体制



平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

本事業は、平和構築および開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省の人材育成事業です。

令和2(2020)年度は、平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、平和構築・開発分野で10年程度の経験を持ち、同分野で今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、プライマリー・コース修了生を中心に、国際機関やNGO等での就職を希望する方に、平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識を提供する「キャリア構築支援」を実施しました。また、「国連平和維持活動とリーダーシップに関するウェビナー」を開催しました。

本事業は、外務省委託事業として、前身である「平和構築人材育成事業」から今日の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至るまで広島平和構築人材育成センター(HPC)が運営にあたり、プライマリー・コースの海外派遣は主として国連ボランティア計画(UNV)が実施しています。

国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないか。その気持ちだけで、この事業を始めました。13年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や多くの研修員・修了生が、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献しています。運営者として、本当に誇りに感じています。また、かつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方々が、HPCを媒介にして飛躍し、活躍し続けています。

この事業の主役は世界中で平和構築や開発に貢献する、研修員・修了生の方々です。ですから、本事業の運営にあたっては、主役のために何ができるか、という考え方に徹的にこだわりたいと考えています。幸いなことに、本事業を多種多様な関係各機関が支援してくれています。さらには、長い事業運営を通じて、すっかり事業のファンになってしまった講師層をはじめとする分厚い専門家層の支援者の方々もいます。人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間をこれからも歓迎します。



篠田 英朗

HPC代表理事/平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター/東京外国語大学教授

ロンドン大学(LSE)Ph.D.(国際関係学)。平和構築などに関する著作・論文多数執筆。代表作:『平和構築と法の支配』(大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』(サントリー学芸賞)、『集団的自衛権の思想史』(読売・吉野作造賞)など。

本事業で提供する研修コースの特徴

キャリア構築に有益な知識の獲得や実務的な技能の習得をする機会を提供

キャリア構築に有益な知識とは、たとえば平和構築にかかわる様々な議論、現場で活動している主な組織、政策に関する知識のことです。これらを効率的に提供するだけでなく、様々な対応能力が求められる援助調整やプロジェクト運営を意識したシミュレーション形式の演習も取り入れています。チームワークを通じた課題解決という点で実際の業務に近い経験をできるように考慮しています。

さらに、国連等の国際機関でのキャリア構築では個人の多面的なコンピテンシー(業務遂行能力)が問われます。国内研修では、研修それぞれ自体が一つの目標に向かって多国籍のチームがダイナミックな作業をする現場であると位置づけ、コンピテンシー向上のための具体的な経験を積む機会を作り出しています。

キャリア構築への意識を鋭くする環境を提供

自らがどうして平和構築にかかわるのか、どのようにかわるのか、これらのことを考えることは長期的にキャリアを構築する上で重要です。国内研修の機会を通じて平和構築分野に携わる動機や使命感を深めることができるように配慮しています。

また、平和構築分野の経験がない方でも国際機関におけるキャリア構築についてイメージを具体化できるよう気付きの機会を提供します。

専門家、実務家、修了生や同期研修員との国際的なネットワーク構築の場を提供

平和構築の現場には様々な学歴、経歴、バックグラウンドを持った人が関わるため、決まったキャリア構築の路線があるわけではありません。様々な人の実例に数多くふれて経験的な知識を広げながら、創造的に自分のキャリアを切り開いていかなければなりません。研修の運営にあたっては、知識や経験が豊富な講師陣などの専門家層や修了生との交流を促進し、さらに悩みを語り合え、志を共有する仲間の輪を広げ、信頼関係で結ばれた人的ネットワークを充実させていけるように最大限の配慮をしています。

CONTENTS

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは	02
今年度導入した感染症対策措置	03
プライマリー・コース	05
プライマリー・コース海外派遣	07
プライマリー・コース修了生のキャリアパス例	08
ミッドキャリア・コース	09
ウェビナー	11
キャリア構築支援	12
データで見るキャリア構築	13
事業が目指すキャリア構築	15
ピースビルダーズ特集	17

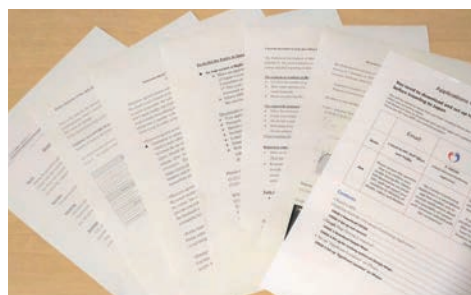
今年度導入した感染症対策措置

今年度のミッドキャリア・コースとプライマリー・コースは、世界中が新型コロナ感染症による影響を受ける中での実施となりました。両コースともに、十分な安全対策を施したうえで、対面式研修の醍醐味と、オンライン研修の安全性と利便性の両面を十分に検討し、バランスよく配分した「ハイブリッド方式」で実施しました。



海外からの参加者への対策

外国人研修員（参加者）のみならず日本人研修員（参加者）についても入出国に際して万全の対策を施し、公共交通機関以外での移動などを取り入れ、感染予防に努めました。また、入出国時のPCR検査や日本入国後の14日間の自己検疫の管理にも万全を期しました。自己検疫期間中は、発熱などの新型コロナ感染症にかかる症状の有無について毎日連絡をとり、健康状況を常に把握しただけでなく、研修員が自己検疫の不便を理由として不要な外出等をせずに済むよう、支援体制の確保に努めました。



オンライン参加者への支援

研修参加を認められながら、日本及び世界各国の入出国管理規制によってやむなく日本への渡航を断念せざるを得なかった方々にも、オンライン形式で積極的にコースに参加していただく機会を確保しました。全ての研修内容をオンラインで中継することによって、研修会場の様子を単に視聴するだけでなく、全体議論における質疑応答や、小人数に分かれてのグループ作業やロール・プレイにも、全て加わっていただきました。時差によるハンデを乗り越えたオンライン研修員（参加者）の方々の自助努力もあり、ミッドキャリア・コース及びプライマリー・コースにおいて、対象者のほぼ全てのセッションにおける活発な参加を確保しました。



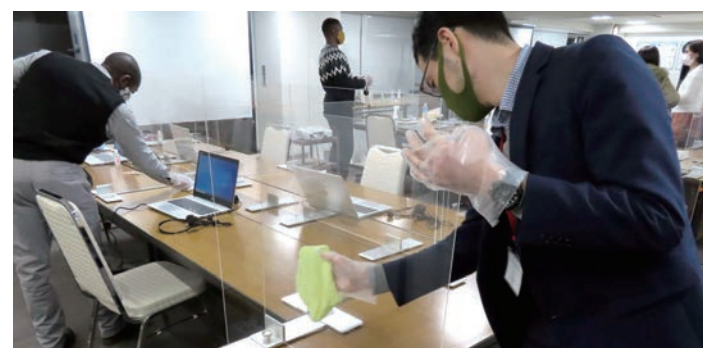
研修会場での感染症対策

飛沫対策



研修会場では全員の座席の前と横にアクリル板を設置し、マスクの常時着用を原則としました。100人収容会議室を30人程度で使用し、全員分の専用マイクを用意することで、発言の際に大声にならない環境を確保しました。講師席も同様の措置をとるだけでなく、プレゼンターが立つ前方には大きめのアクリル板をはりめぐらせ、画像確認用のモニターを研修員各テーブルに配置しました。また、研修会場の横に、研修会場と同様に席の前と横にアクリル板が設置された別会場を用意し、グループ作業時や昼食時に使用できるようにしました。

接触対策



研修会場にアルコール消毒薬を常設しました。研修会場に入る際だけでなく、それ以外の機会でも最大限の手の消毒及び、周辺備品・机等の消毒を実施できるようにしました。また、研修員（参加者）に対して携帯用の消毒液を配布し、研修会場内外での周辺備品やドアノブの消毒等を推奨しました。スタッフは消毒薬と併用で、使い捨て手袋の使用を徹底しました。研修にあたっては、紙媒体の配布物の原則廃止と、共有物あるいは複数人が触れる物を作らない方針を徹底し、グループ作業などにあっても、消毒前の座席変更などが発生しないように万全の配慮を施しました。毎日食事の前後や研修終了後は、机・椅子・ドアノブ・タブレット・パソコンなど多くの人が触れる箇所をアルコールにて、アクリル板は中性洗剤にて拭き、消毒を行いました。

エアロゾル対策



会場では最大限の換気（複数の窓の常時開放と30分に一回程度の追加の窓開け）を確保し、ホテルが常備している粒子除去の空調設備とともに、追加で粒子除去の空気清浄機を導入設置しました。空気清浄機は政府が推奨するHEPAフィルターと同じレベルのサイズの粒子除去が可能なもの（風量が毎分5㎡程度以上）を使用しました。また、感染症対策で推奨されている室温18度以上、湿度40%以上を確保し、寒さ対策として個々人に使い捨て毛布と使い捨てカイロ等を提供し、参加者の皆様には厚手の服装での参加を推奨しました。なお、会場内には加湿器も設置しました。

その他



入室の際、自動体温測定器による検温を行い、発熱の有無を確認できるようにしました。また、体調不良時は速やかにHPCスタッフへ連絡する体制を作り、状況に応じて自室にてオンラインで研修を受講するように勧めました。研修前には参加者へ新型コロナ感染症の予防対策についての資料を送付すると同時に、研修室内に厚生労働省作成の新型コロナ感染拡大防止のための啓発ポスターを掲示し、研修期間中を通じて内容説明を行いました。研修期間中の日本国内の政府・地方自治体の新型コロナ感染症対策の概要についての説明も行いました。デリバリー・サービスの情報提供や発注支援なども行いました。



Primary Course

プライマリー・コース

身につくのは、知識、実践、自信、そして人の輪

1 | 国内研修

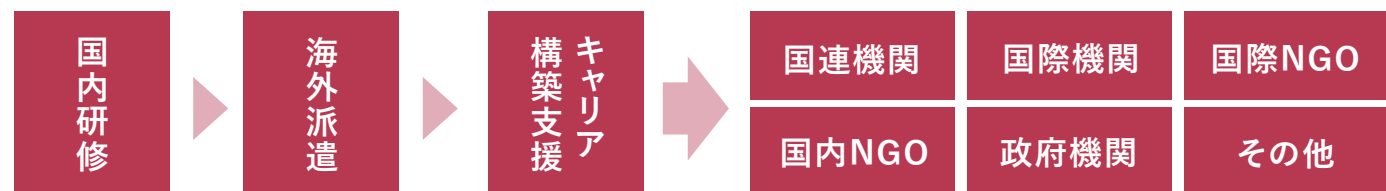
2021年1月20日から2月23日までの約5週間にわたって国内研修を実施しました。外国人研修員は、計8名中7名が、実地参加のため本国でのPCR検査等の手続きを経て2週間前に日本に入国し、新型コロナウイルス感染拡大の水際対策にかかる自己検疫を行いました。残る1名は、訪日が困難となったため、全日程を本国からオンラインで参加しました。日本人研修員は、計10名中9名が実地で参加、残る1名が海外から全日程オンラインで参加しました。また、講師については33名中9名が実地で（そのうち3名は海外の本国または居住国から出国するための要件として2週間の自己検疫を済ませた上で来日）、残る24名にはオンラインでご貢献いただきました。コースの全日程を通じて、実地（対面での）参加とオンライン参加を恒常的に両立させた「ハイブリッド方式」で実施し、経験豊富な講師の下でロール・プレイやグループワークなども行われ、オンライン研修員も活発に参加して、大変有意義な研修となりました。また、研修会場では飛沫・エアロゾル・接触に対する最大限の感染予防・防止策を施しました。国内研修は2月23日に無事に終了し、外国人研修員は、出国時のPCR検査で全員の陰性が確認され、無事に帰国を果たしました。海外の平和構築人材育成機関や国連などの国際機関と連携し、世界最高水準の講師陣による充実した研修となり、これによって、平和構築・開発分野の第一線で活躍する実務家との人的ネットワークの形成も期待されます。

2 | 海外派遣

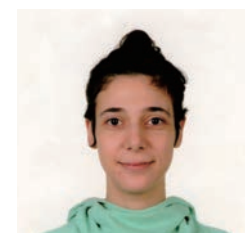
日本人研修員は国内研修修了後、国連ボランティア(UNV)として平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ、最大12ヵ月間派遣されます。研修員は、国内研修実施後の2021年3月から順次派遣されることになっています。平和構築・開発分野の専門家になるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを現場で実践する貴重な機会となります。なお2020年10月には、研修員と派遣先の円滑なマッチングのために、国連機関駐日事務所の職員の方々と日本人研修員をオンラインでつないで、2日間にわたるオリエンテーションを実施しました。オリエンテーション参加機関は、「国連食糧農業機関(FAO)日本事務所」、「国連児童基金(UNICEF)東京事務所」、「国連人口基金(UNFPA)東京事務所」、「国連プロジェクトサービス機関(UNOPS)駐日事務所」、「国連世界食糧計画(WFP)日本事務所」、「国際移住機関(IOM)駐日事務所」、「国連開発計画(UNDP) 駐日代表事務所」、「国連防災機関(UNDRR) 駐日事務所」、「国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所」の9機関となりました。

3 | キャリア構築支援

国内研修開始前から、将来のキャリア・プランづくりを支援しています。国際機関の要職経験者や人事担当者による助言制度などのサポート体制を強化するとともに、他の研修員、国内研修の講師陣、海外派遣先の機関などと研修を通じて幅広い人脈を築くことが可能です。また、採用に関する情報の提供も行っています。



今年度研修員からのメッセージ



メリッサ・グンドゥズ

ベースの速い職場環境にいと、一旦立ち止まって知識やスキルを強化するような機会をよく逃してしまいます。この点で、プライマリー・コースが生み出した空間と時間は、私の土台と能力を再構築し、強化することができたユニークな機会でした。平和構築と開発援助におけるプログラムの包括的で革新的な構成は、人道主義

の中核的原則を異なる視点から学ぶだけでなく、議論し、実践し、理解することを可能にするものでした。本部から現場まで、国連の構造を観察し、理解することができました。重厚かつ多様な講師陣と毎週のモジュールの最新の構造は、私が毎日自分の長所と短所を識別し、それに取り組むのを奨励してくれるものでした。世界中の専門家から直接の指導とキャリア構築のヒントを受けることは、真に特権的なことでした。さらに、広島が世界に開いている窓から平和を観察し、学ぶことは、私の心に永遠に残るだろう経験となりました。どんな困難に直面しても、広島は、平和を築き、維持してきました。広島にできたことは、世界中の誰にとっても可能であり、やるべきことです。私は、現場で違いを生み出すため、力をあわせて努力することを楽しみにしているすべての人に、このコースをお勧めします。



田澤 優花

私は民間企業で国際渉外、政府機関で人権外交の仕事に携わった後、プライマリー・コースに参加しました。これから国際機関でのキャリアを目指すために、まずはフィールドの経験が必要だと

感じたからです。5週間の国内研修では、UNVとしての海外派遣に必要な知識やスキルを体系的に学びました。講師陣はもちろん、国内外からの研修員も平和構築分野での経験があり、現場の話を多く聞くことができました。初めてフィールドに派遣される私にとって、とても貴重な機会でした。研修中、国際機関で経験を積んだ講師のみなさんから、キャリア構築についてもアドバイスを受けることができました。これから平和構築の分野に踏み出したい人にとって、このコースは絶好のプログラムだと思います。

国内研修の様子



国内外から講師・研修員が集まり、活発な討議・グループ作業を行いました。



国連現役職員など経験豊富な講師が実地又はオンラインにて講義を行い、グループ活動の指導等を行いました。



チームワークを発揮し、講師の助言も得ながら、グループ作業にあたりました。



最初の週末のエクスカージョンでは、「広島平和記念公園」を訪問しました。

令和2（2020）年度プライマリー・コース：国内研修カリキュラム・講師紹介

Initial Week

開講式・外務省副大臣表敬（オンライン）・自己紹介プレゼンテーション・チームビルディング・平和構築の紹介・コンビテンシー（業務遂行能力）の紹介

実地講師

篠田 英朗

HPC代表理事/東京外国語大学教授

上杉 勇司

HPC副理事/早稲田大学教授

玉内 みちる

HPCシニア・アドバイザー（キャリア構築支援）

Workshop1：アナリシス

紛争分析の理論と様々な方法
政治的・法的分野の政策的課題

実地講師

忍足 謙朗

HPC評議委員/難民を助ける会(AAR Japan)
常任理事/元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長

藤原 広人

国際刑事裁判所(ICC)書記局・対外活動局
国別分析ユニット長

篠田 英朗/玉内 みちる

オンライン講師

デズモンド・モロイ

HPCコース・メンター/平和と紛争研究センター(CPCS) コンサルタント

シモネッタ・ロッシ

国連シエラレオネ常駐調整官事務所(UNRCO) 平和・開発アドバイザー

小野京子

国連人道問題調整事務所(OCHA)ラカイン事務所代表

ジョマート・オルモンベコフ

国連政治・平和構築局(DPPA)
北京駐在政務調整官

リサ・リーフキ

国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA) 政務部上級政務担当官

上杉 勇司

Workshop2：プランニング

活動計画の立案の手法
安全保障分野(DDR・SSR・PKOミッション等)の政策的課題/人事

実地講師

篠田 英朗/玉内 みちる

オンライン講師

マリア・ロペス・エチェバリア

国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)
復興と帰還、社会復帰担当官

長谷川 祐弘

HPC評議委員会委員長/日本国際平和構築協会理事長/元国連事務総長特別代表(東ティモール担当)

ウマル・バ

元国連マリ多面的統合安定化ミッション
ガオ地域事務所長

マイケル・エメリー

国際移住機関(IOM)人事部長

平原 弘子

国連南スーダン共和国ミッション(UNMISS)
ベンティウ事務所長

アンソニー・P・ダンカー

世界気象機関(WMO)言語、会議、共通サービス部長

フィフィ・エデュ・アフル

コフィ・アナン国際平和維持訓練センター(KAIPTC) 平和支援活動プログラム上級研究員・次長

上杉 勇司/デズモンド・モロイ

キャリア・デザイン

キャリアコンサルタントとして人材育成・活用に関するコンサルティング及び研修に従事

オンライン講師

佐藤 知央 オフィスクラッチ代表

Workshop3：コーディネーション

多様な組織間の業務調整・交渉の手法
人道援助活動の政策的課題/コミュニケーションスキル

実地講師

中村 俊裕

NPO法人コペルニク(Kopernik) 共同創設者兼
CEO/大阪大学COデザインセンター招聘教授

末藤 千翔

元国境なき医師団プロジェクトコーディネーター

舩岡 真理

国連世界食糧計画(WFP)イエメン
サプライチェーン担当官

篠田 英朗/玉内 みちる/忍足謙朗

オンライン講師

ピーター・コゼレツ

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)
ファーストオフィサー

ジョン・キャンベル

セキュリティ・コンサルタント/元国連難民高等弁務官事務所(UNHCR) アジア太平洋安全アドバイザー・eセンターコーディネーター

ルイス・ロビンソン

InsITUトレーニングディレクター/上級人道支援アドバイザー・安全トレーニング専門家

上杉 勇司/デズモンド・モロイ

ギヨム・フォリオ

Global Vision創設者兼リードコンサルタント/Le Designer Clandestin創業者

副島 知哉

国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)
バングラデシュ コックスバザールサブオフィス保護担当官

大庭 真理枝

国連開発計画(UNDP) 南スーダン
再統合専門官

Workshop4：マネジメント

プロジェクト・マネジメントの手法
様々なファンドスキームを通じた開発援助活動の政策的課題

実地講師

小松原 茂樹

国連開発計画(UNDP)マラウイ共和国常駐代表

篠田 英朗/忍足 謙朗/中村 俊裕/舩岡 真理

オンライン講師

ママドゥ・ンダウ

国連開発計画(UNDP)アディスアベバ地域サービスセンターリザルト・ベースド・マネジメントアドバイザー、チームリーダー

鈴木 恵理

国連児童基金(UNICEF)東部・南部アフリカ地域事務所 子どもの保護担当官

渡辺 愛子

国連平和活動局(DPO) プログラム管理官

馬目 美奈子

国連開発計画(UNDP) シリア
経済開発・生計チームリーダー

モニカ・リジャル

国連開発計画(UNDP)危機局
紛争予防・平和構築チームリーダー

上杉 勇司/玉内 みちる/
デズモンド・モロイ

安全管理術

実地講師

篠田 英朗/忍足 謙朗/末藤 千翔

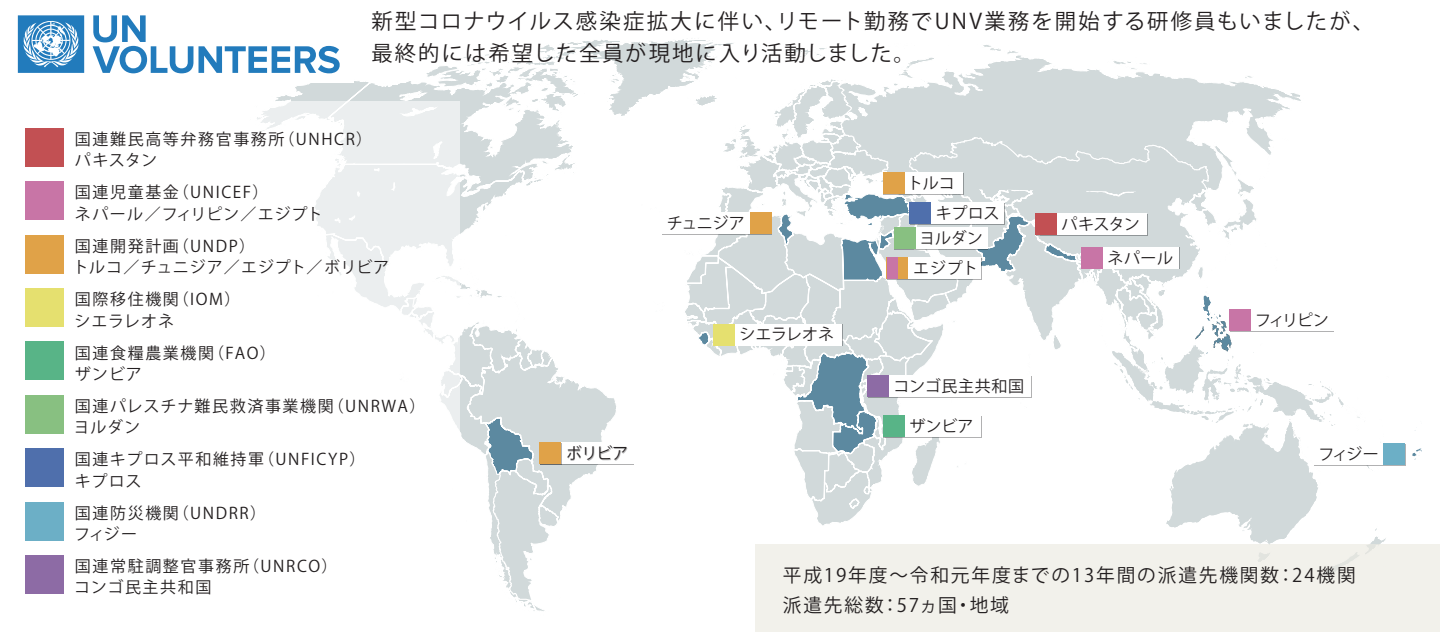
オンライン講師

ジョン・キャンベル/ルイス・ロビンソン/デズモンド・モロイ/上杉勇司

キャリア構築支援

実地講師

玉内 みちる



- UNDP(国連開発計画)／47名
 - UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／35名
 - UNICEF(国連児童基金)／30名
 - IOM(国際移住機関)／14名
 - WFP(国連世界食糧計画)／12名
 - UN Women(国連女性機関)／9名
 - UNRCO(国連常駐調整官事務所)／5名
 - UNOPS(国連プロジェクトサービス機関)／4名
 - FAO(国連食糧農業機関)／3名
- OCHA(国連人道問題調整事務所)3名
 - UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／3名
 - UNODC(国連薬物犯罪事務所)／3名
 - WHO(世界保健機関)／3名
 - UNESCO(国連教育科学文化機関)／2名
 - UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)／2名
 - IDEA(民主主義・選挙支援研究所)／1名
 - Office of UN Funds and Programmes Cape Verde (国連基金・計画カーボベルデ事務所)／1名
- UNDRR(国連防災機関)1名
 - UN-Habitat(国連人間居住計画)／1名
 - UNIOGBIS(国連ギニアビサウ統合平和構築事務所)／1名
 - UNMAS(国連地雷対策サービス部)／1名
 - UNFICYP(国連キプロス平和維持軍)1名
 - UNAMID(ダルフル国連AU合同ミッション)／1名
 - UNMIS(国連スーダンミッション)／1名
- ※PKOミッションへは本事業終了扱いで派遣されています。

国連ボランティアとして積む、
平和構築・開発の現場での実務経験

海外派遣では、国連ボランティアとして国際機関での実務に従事します。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実務経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。これまでの事業では、国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国連世界食糧計画(WFP)、国連移住機関(IOM)といった国連機関が主な受け入れ先となりました。派遣先の地域もアフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、東南アジア、中央アメリカなど非常に多岐にわたっています。



熊丸 耕志
平成23(2011)年度
プライマリー・コース修了生

応募動機

自身の専門領域である水・衛生の知見を活かして、研究者の立場よりも更に現場に近い実務者として、最も脆弱な環境に直面している方々と向かい合うことを希望して応募しました。人道支援、平和構築、開発を繋ぐ道を模索しています。

研修参加前の
キャリア

大学院卒業後、難民支援事業本部 (RHQ) にて、日本国内で難民庇護を求める方々を支援しました。その後、英国の水工学・開発センター (WEDC) における博士 (Ph.D.) 課程の研究プログラムで、UNICEFザンビア・エチオピア事務所と地方僻地給水に関する事業に研究者として従事しました。

海外派遣での
タイトル・職務内容

ソマリアのIOM (国際移住機関) で水衛生専門官 (WASH Specialist) として、20年以上続く紛争や大飢饉で住処を追われた国内避難民の方々に清潔で安全な水、衛生施設のサービスを提供。持続的な水衛生環境を整備するために、日本企業の水処理技術を用いたPPP (官民連携) も実施し、TVプログラム「ガイアの夜明け」にて取り上げられました。

研修修了後の
キャリア

同事務所で正規職員として契約更新。その後、空席公募で南スーダンのUNICEFマラカル地域事務所水衛生専門官のポジションを獲得。PoC (文民保護地域) 及び難民キャンプで水衛生事業を統括。僻地及び紛争地帯の現場経験を通じて、持続的な水衛生の環境を整えるためには気候変動対策、そして民間企業との連携の重要性を再認識。アジア太平洋地域8カ国において環境省の気候変動適応専門官として気候変動対策に取り組み、パリ協定の国際交渉にも従事。その後、UNICEFジュネーブ・東京にて民間連携専門官として民間企業の技術・サービスを途上国の水衛生・医療・イノベーションに活かす枠組み構築に尽力し、新型コロナウイルス感染症対策としてPPP (官民連携) にも貢献。現在は、マーシャル諸島のUNDPで気候変動に強靱な水資源プロジェクトマネージャー (P4) として、緑の気候基金 (GCF) 案件を担当しています。



中山 遥
平成25(2013)年度
プライマリー・コース修了生

応募動機

学生時代に紛争解決を学んだ経験から国連で平和構築に貢献したいとの目標があり、特に紛争後の開発に興味がありました。国内研修で平和構築の実践的な基礎を学び、海外研修でフィールド経験を積むことで、今後の平和構築分野におけるキャリア形成の土台を作りたいと考え応募しました。当事業の素晴らしい評判を過去の事業参加者から伺う機会があったことも決め手となりました。

研修参加前の
キャリア

米国の大学を卒業後、同国の大学院にて紛争分析解決学の修士号を取得、在学中にネパールの国連アジア太平洋平和軍縮センターにてインターンも経験しました。大学院卒業後は東京の経営コンサルティング会社にて約2年間、外資系会社をクライアントとしたプロセス改善や内部統制、システム導入といった経営管理のプロジェクトに従事しました。

海外派遣での
タイトル・職務内容

UNDPルワンダ事務所青年・ガバナンス・市民参画の専門家として、主に「市民社会強化プログラム」のプロジェクト・財務管理を担当し、ルワンダ国内NGOへの資金提供とそのモニタリングを担当しました。さらに「One UN (ひとつの国連)」の一環として国連5機関のコーディネーション会議や、「UNDPイノベーション委員会」のイベント企画・運営にも携わりました。

研修修了後の
キャリア

海外派遣を通し、発展途上国における持続可能な発展のためのプライベートセクターの役割や、国連のような国際的な組織のマネジメントに興味を持つようになりました。研修終了後は東京の経営コンサルティング会社にて、国内・海外の企業統合や投資案件、組織改革のアドバイザー業務に従事しました。2020年1月からはJPOとしてNYの国連事務局のオペレーション支援局に派遣され、プログラム管理官として国連の組織改革に携わっています。



桑田 弘史
平成25年度(2013年度)
プライマリー・コース修了生

応募動機

スーダン、イラクといった紛争、戦争の影響を受けた国で5年ほど勤務したことで、復興において平和維持・平和構築の重要性を痛感しました。本コースに参加することで、同分野における知識を強化し、また同じ分野で志を共にできる人たちと一緒に研修が受けられるという魅力を感じ応募しました。

研修参加前の
キャリア

イギリスのNGO、Pastoral and Environmental Network in the Horn of Africa (PENHA) で、スーダン担当として2年間勤務後、JICAスーダンで2年農業科学技術案件のプロジェクト・マネジメントを担当しました。その後JICAイラク事務所2年間農業、行政、教育の分野で円借款案件及び技術協力案件を担当し、JICAイラク事務所との契約終了間際にプライマリー・コースに参加しました。

海外派遣での
タイトル・職務内容

国連開発計画 (UNDP) バングラデシュ事務所にて、平和構築と地方行政担当官として約1年間勤務しました。チッタゴン丘陵地帯紛争(1977-1997)を経た当時もまだ各地でジュマと呼ばれる文化・人種的には東南アジアの住民に近い原住民族と国の大半を占めるベンガル人との間で小さな衝突が続くチッタゴン丘陵地帯にて勤務しました。主に地方行政を支援する事業を担当し、例えば州政府がUNDPからの資金供与を得て、住民主導のインフラ整備を行うプロセスを支援し、その過程で、資金管理、住民主導のプロジェクトの選定やそのモニタリングの方法を指導しました。本事業は地元住民の求めるインフラ整備にも寄与しました。

研修修了後の
キャリア

研修終了目前にUNOPSスーダンで働くことが決まり、UNOPSスーダンにて1年間勤務しました。ダルフルの洪水対応緊急支援のプロジェクト管理を担当し、学校と診療所の修繕及び給水施設の設置を行いました。その後、JPO/SARCとしてブーダンの国連常駐調整官事務所へ赴任し、2年半の間、常駐調整官の補佐とブータンで活動する国連機関のコーディネーションを行いました。その後、南スーダンにパートナーシップ・資金調達専門官として派遣され、UNDPとUNICEF両事務所の資金調達のため2年間勤務しました。現在は、ニューヨークの危機管理局にて、コロナ対応のプロジェクト管理を担当しています。

Mid-Career Course

ミッドキャリア・コース

平和構築・開発の現場におけるキャリア構築のためのスキル・能力の深化と実践



ミッドキャリア・コースでは、平和構築・開発に関連する諸分野(法律、行政、医療、IT、調達、会計、広報等を含む)で10年程度の実務経験を有する方々のキャリア発展を目的とし、組織における立場の変化や複雑化する業務への対応等の課題に対し、求められる総合的な応用力として、国際機関における「Competencies(業務遂行能力)」である「コミュニケーション/ネゴシエーション」、「リーダーシップ/マネジメント」に焦点をあてて、ロール・プレイ演習などを通じた強化を目指しました。参加者の方々は、講師陣のフィードバックをもとに更なる個人のパフォーマンスの向上を図り、またチームワークを通じたネットワーク構築を進めていただく機会を提供しました。今年度は2021年1月5日から1月11日の7日間にわたり、実地とオンラインを組み合わせた「ハイブリット形式」の研修を東京で実施しました。

今年度参加者からのメッセージ



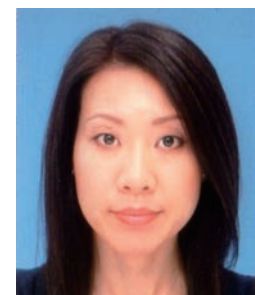
アイダロブ・スウィンベック

国連世界食糧計画(WFP)キルギスタン サブオフィス所長

広島平和構築人材育成センター(HPC)が主催するミッドキャリア・コースは、私のキャリアのこのステージで目を見張るべき、本当の発見でした。15年近くにおよぶ平和構築、紛争解決そして開発に関する様々な国連機関での職務経験で、私は最高品質の実践的なガイダンスを探していました。HPCのミッドキャリア・コースは、私が実地経験と真に研ぎ澄まされたコミュニケーションや交渉術、リーダーシップ、マネジメントの能力を双方向のディスカッションやロール・プレイ演習を通して、獲得する手助けをしました。7日間の研修期間、私は文字通り現実から離れ、自分自身を豊かな考えや経験、そして専門性と知識を持つ講師陣の中に置き、成長させることができました。

このコースを通じて私は平和構築と開発の分野で経験豊富で志の高い若いリーダーと交流し、国連のトップの経験を持つ講師たちと話をして知恵を得る機会を得ました。7日間の研修では、参加者と刺激的な議論を持ち、技能を取得しただけでなく、将来のプロジェクトや情報交換のための社会的で専門的なネットワークを構築しました。

人道主義者にとって重要で必要性の高い技能や態度や行動を習得し、国際的な専門家とのネットワーク構築を得て、私はさまざまなレベルで大規模に、紛争予防、平和構築、開発プロセスに貢献する準備ができています。



大豆本 由紀

国際移住機関(IOM)ナイジェリア プログラムマネージャー(移民・国境管理)

私は現在IOMナイジェリアにて国境管理に係る総合的なプログラムの管理を担当しています。ここに至るまでの13年間、インドネシア、スーダン、スリランカ、ネパール、シエラレオネにおける平和構築、人道支援、開発の業務に携わり様々な経験を積んできましたが、現在の責務はより広範囲にわたり、そしてより多面的で複合的であることから、これまでと同様のリーダーシップの発揮の仕方やアプローチでは限界があるのではないかと感じていました。それはつまり私のキャリア上ステップアップが必要な時期であるということを示していて、その意味でこの研修は私にとって非常にタイムリーなものでした。

リーダーシップは戦略的思考、他者への影響力、コミュニケーション力、交渉力等様々なコンピテンシーを総合的に活用して発揮されます。また現在のようなコロナ禍においては、オンラインコミュニケーションの効果的な活用、メンタルヘルスやスタッフ及び自身のウェルビーイングへの配慮も重要です。この研修では専門家がこれらを理論的に説明し、かつロール・プレイやグループワークを通じて実践的に体感することが出来ました。例えば記者会見を実施するといった演習では、実際にカメラや照明が設置され、現場での緊張感を疑似体験することが出来、その場での臨機応変な対応の必要性を実感することが出来ました。また私のパフォーマンスやコメントに対するファシリテーターや参加者からのフィードバックは未知なる自分を発見させてくれ、自分の新たな可能性を示唆してくれるものでした。更に現役及び前職国連管理職の方々の講義は、それぞれのリーダーシップの発揮の仕方を目の当たりにする又と無い機会でした。

私がこの研修で心に残っているのは“Leaders are people who do the right thing, managers are people who do things right.”という言葉です。私たちにとって正しい事とは何か。それは国連が掲げるビジョンを実現していくことであり、そのビジョンを共有していくことです。そのために必要なリーダーシップをこの研修では学ぶことが出来ます。是非多くの方に参加して頂きたいと思います。

令和2(2020)年度ミッドキャリア・コース参加者出身機関

DPPA(国連政治・平和構築局)／IOM(国際移住機関)／WFP(国連世界食糧計画)／UNICEF(国連児童基金)／UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／UNDP(国連開発計画)／UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／UNIDO(国連工業開発機関)／ICC(国際刑事裁判所)／ADB(アジア開発銀行)／日本アセアンセンター／国際連合日本政府代表部／防衛省／民間企業／NGO

過去5年間のミッドキャリア・コース参加者出身機関(2015年～2019年度)

DPKO(国連平和維持活動局)／DFS(国連フィールド支援局)／UNMAS(国連地雷対策サービス部)／DPI(国連広報局)／UNRCO(国連駐調整官事務所)／IOM(国際移住機関)／UNICEF(国連児童基金)／WFP(国連世界食糧計画)／UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／FAO(国連食糧農業機関)／UN-Habitat(国連人間居住計画)／UNESCO(国連教育科学文化機関)／UNAIDS(国際連合エイズ合同計画)／ILO(国際労働機関)／UNOPS(国際連合プロジェクトサービス機関)／UNDP(国連開発計画)／UNFCCC(気候変動枠組条約事務局)／UNRWA(国連パレスチナ難民救済事業機関)／WHO(世界保健機関)／UNITAR(国際連合訓練調査研究所)／UNMISS(国連南スーダン共和国ミッション)／UNSOM(国連ソマリア支援ミッション)／MINUSMA(国連マリ多元統合安定化ミッション)／UNSOA(国連AMISOM支援事務所)／UNOCA(国連中央アフリカ地域事務所)／UNFICYP(国連キプロス平和維持軍)／OSES(国連事務総長特別代表[シリア]事務所)／KAIPTC(コフィ・アナン国際平和維持訓練センター)／ICRC(赤十字国際委員会)／INTERPOL(国際刑事警察機構)／世界銀行／メコン川委員会／OSCE(欧州安全保障協力機構)／外務省／内閣府／JICA(国際協力機構)／NGO／民間企業

(機関名称はコース参加当時の名称)



令和2(2020)年度ミッドキャリア・コース：カリキュラム・講師紹介

リーダーシップとコミュニケーションのコンピテンシー(業務遂行能力)の概論 国際機関におけるリーダーシップとコミュニケーションの応用

Day 1	コース概要
Day 2	リーダーシップとコミュニケーションの必須ポイント
Day 3	リモートワーク時代に問われるリーダーシップとコミュニケーション
Day 4	国連でリーダーシップが問われる場面
Day 5	国連システムにおいて求められるリーダーシップ
Day 6	フィールドレベルでのリーダーシップの強化
Day 7	リーダーシップとコミュニケーションの総合的復習



実地講師

篠田 英朗	HPC 代表理事／東京外国語大学教授
上杉 勇司	HPC 副理事／早稲田大学教授
玉内 みちる	HPC シニア・アドバイザー(キャリア構築支援)
忍足 謙朗	HPC 評議員/難民を助ける会(AAR Japan)常任理事／元国連食糧計画(WFP)アジア地域局長
ニール・グプタ	ウンナティ・アンリミテッド取締役
ジュリア・スロン	スロンインターナショナル代表

オンライン講師

アミーラ・ハク	バングラデシュ農村向上委員会(BRAC)グローバルボード議長/元国連活動支援担当事務次長(USG for Field Support)/元東ティモール担当国連事務総長特別代表(SRSG)兼国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)代表
中満 泉	国連事務次長・車縮担当上級代表
シッダルタ・チャタジー	駐ケニア共和国国連常駐代表
ウマル・バ	元国連マリ多面的統合安定化ミッション ガオ地域事務所長
鈴木 彩果	国連事務局 幹部職員
長谷川 祐弘	HPC 評議委員会委員長／日本国際平和構築協会 理事長／元国連事務総長特別代表(東ティモール担当)

Webinar

ウェビナー

国連平和活動と
リーダーシップの知見と共有



「国連平和維持活動とリーダーシップに関するウェビナー」は、国連平和維持活動のミッション現場において、リーダーシップが直面する課題や対応策、ミッションリーダーとして求められる資質等について経験豊富な講師からの講演を通し、実践的なリーダーシップのあり方を学び、国際機関での実務に活かせる有益な知見や情報を得ることを目的として開催しました。参加者の方々には講演及び質疑応答によりさらなる能力の向上を図りました。なお、本講演は2020年11月18日に東京を基点として行われました。

講師 | アミーラ・ハク

国連活動支援担当事務次長(USG for Field Support)をはじめ、東ティモール担当国連事務総長特別代表(SRSG)兼国連東ティモール統合ミッション(UNMIT)代表、国連スーダンミッション(UNMIS)副代表(DSRSG)兼国連スーダン事務所常駐調整官・人道調整官(RC/HC)、国連アフガニスタン支援ミッション(UNAMA)副代表(DSRSG)兼国連アフガニスタン事務所常駐調整官・人道調整官(RC/HC)などを歴任。現在、世界規模の国際NGOであるBRACにて活躍。

ウェビナー参加者の所属先
HPCの修了生や外務省、内閣府、
国際機関邦人職員など50名以上



参加者アンケート

参加者アンケートを行った結果ではウェビナーの満足度は85%、将来のキャリアへ有益度は79%、講師の満足度は89%となりました。ウェビナー開催後に実施した参加者アンケートでは、以下のようなコメントがありました。

質問1 ウェビナーはあなたの期待に応えましたか？

- 芸術として特徴づけられるリーダーシップについて、有名な高官の深い洞察を知ることが私にとって良いものとなりました。
- 講師は非常に刺激的でした。なぜなら彼女が言ったことはすべて、実際にUSGとSRSG、DSRSGの仕事をしたことに基づいたものだからです。
- アミーラ氏のリーダーシップについての考え方に非常に共鳴しました。

質問2 ウェビナーはあなたの将来のキャリアに有益となりましたか？

- 国連のリーダーに必要な能力を知ることは、国連で成功するキャリアを築くための素晴らしい情報となりました。
- 私はキャリアを追求するいくつかのヒントを学びました。
- 私はリーダーがどうあるべきかを理解しました。

質問3 ウェビナーに参加した動機は何でしょうか？

- 自身のキャリアを振り返るため、国連の高官から経験とリーダーシップのモデルを学ぶためです。
- 平和構築と日本の役割を知るためです。
- 国連でのリーダーシップに興味があり、国連の高官から学びたかったからです。



キャリア構築支援

採用のプロセスと仕組みを理解し、
戦略的に応募の準備をするコツを知る



キャリア構築カウンセリング

プライマリー・コース研修員・修了生、及び他コースの参加者を対象に玉内みちるシニア・アドバイザーによるカウンセリングを継続的に実施。受講者はこれまでの経験・専門性を振り返りつつ、自身の今後のさらなるキャリアの発展に役立つアドバイスを受けました。



玉内 みちる HPCシニア・アドバイザー（キャリア構築支援）

みなさん、こんにちは。私は、長年国連機関で人事・人材開発の仕事に携わってきました。実は、国連・国際機関に入るためには、その特殊な採用のプロセスと仕組みを理解し、戦略的に応募の準備をするというちょっとしたコツがあります。それを実行すれば、採用されるチャンスは増大します。国連機関が求めている人材や職種は、あらゆる分野に渡っています。国連とは何の関係もない分野だと思ってキャリアを積んだ方でも、専門性を生かして活躍できる場が見つかる可能性もあるのです。

世界を舞台に働く「グローバル人材」とは国際機関に限らず、グローバルビジネスの分野においても、世界のどこでも通用する専門知識・スキル・行動パターンを持っている人のことを指します。語学のみならず、文化やコミュニケーション・スタイルの違いを乗り越える柔軟性を持ち、多様な人々と目標達成のために効果的に働くことができる人材のことです。

世界各国にプログラムを展開する国連組織は、チャレンジングな職場です。異文化の人々と異文化の環境で、世界のことを考えながら働く現場です。泣いたり笑ったり、落胆したり、感動したり、自分自身の文化の境界と限界を常に超えることを余儀なくされるユニークなキャリアです。グローバルなキャリアに挑戦してみたい方々にとって、グローバル人材育成事業のコースはご自分のキャリア人生において、貴重なターニング・ポイントとなると思います。皆さん、どんどん参加してください。

キャリア構築支援システム

プライマリー・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを作成し、キャリア構築支援の拡充を行っています。修了生専用のウェブサイトページ内では、修了生同士のネットワーキング拡充や、オンラインセミナーの実施、メンターシステムを導入しキャリアについて深く考える機会を提供しています。

キャリア構築支援セミナー

2020年4月25日に海外派遣中の研修員による現地状況の話や、代表理事である篠田から「コロナの現状と国際政治」、玉内みちる氏(HPCシニア・アドバイザー)から「ウェルビーイングとポストコロナ キャリア開発」をテーマにZOOMセッションを行いました。また、7月23日に岸守一氏(UNDP上級顧問)によるオンラインセミナー「コロナ危機下の国連と邦人職員の今後」を、8月23日に伊東孝一氏(国連オペレーション支援局(DOS)上席企画官)による「COVID-19危機下における国連本部の最近の動向」を開催しました。

いずれの場合でも、新型コロナウイルスの影響でUNVとしての海外派遣が遅れたり、日本でのリモート勤務でUNVとしての職務を開始した令和元年度研修員の間の相互の情報交換を行ったり、修了生の方々とまじえて貴重な助言をいただいたりするための機会としても活用しました。プライマリー・コース国内研修中に修了生をまじえたセッションを行ったりもしました。2021年3月6日には、プライマリー・コース講師を務めている元国連世界食糧計画(WFP)職員のギヨム・フォリオ氏によるオンラインセミナー「仏語圏勤務者会合」を開催しました。このセミナーは、フランス語圏に現在勤務または将来勤務を希望するプライマリー・コース修了生、ミッドキャリア・コース参加者を対象にした仏語圏勤務者強化策のために行なわれました。

修了生専用Webサイト

「国際機関等において当該分野のポストを獲得し、更には上位のポストに就いていくこと」を目的に、プライマリー・コース日本人修了生専用のウェブサイトページを2020年度も運用し、キャリア構築支援の拡充を図るため4つのコンテンツを提供しました。

Career Periodic Diagnosis(キャリアの定期健診)では、プライマリー・コースで毎年日本人研修員向けにOffice CLUTCHの佐藤知央講師を招いて行なっている「キャリアデザイン研修」の内容を発展拡充させ、修了生が定期的に自身のキャリアを見つめる機会を提供しています。「キャリアデザイン研修」は研修終了から時間が経っている修了生らに対し、自分のキャリアと向き合い自信へつなげることや、課題を把握してキャリア・プランの充実への意識化を図ることを目的としています。また、具体的な相談やカウンセリングを希望する修了生には当法人を介して講師と連絡出来る機会を提供しています。

Online Seminar(オンラインセミナー)では、これまでに開催された国連機関でのキャリア構築やメンタルヘルスに関するオンラインセミナーの動画を公開しています。

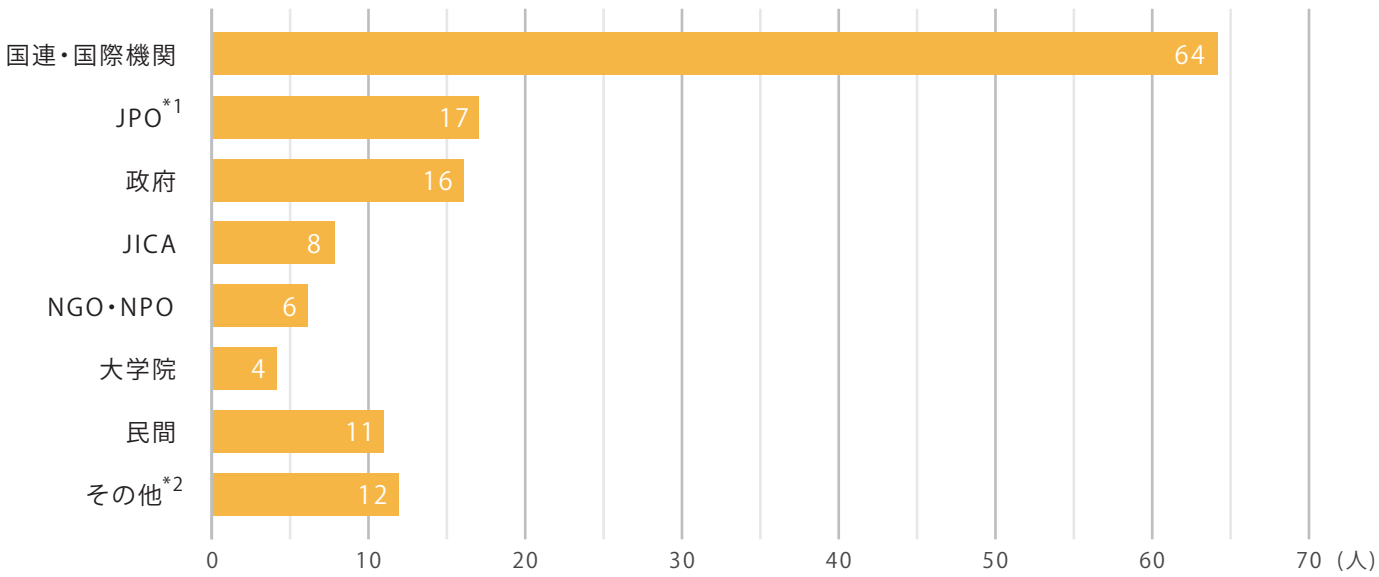
POTI (Peace Operations Training Institute) Eラーニング・コース無料受講では、プライマリー・コース修了生及びミッドキャリア・コース参加者の特典として、米国を拠点に活動するNGOであるPOTIが提供する平和活動に関連するEラーニング・コースを無料で受講することができます。また、各コースを受講し、最終テストにて75%以上の得点を獲得された場合、POTI代表者及び当法人代表理事の署名が入った修了証明書が発行されます。

List of Mentorsでは、本事業にご貢献をいただいている講師に許可を取り、プロフィール・現職肩書き・駐在機関の一覧を掲載しています。修了生が講師層にキャリア構築に関して具体的な相談等を、当法人を介して開始できる機会を提供しています。また、修了生の相互交流の機会を充実させるため、許可をいただいた修了生の現職一覧を掲載し、相互に連絡を取り合えるように配慮し、相互ネットワーク構築の機会を促進しています。



データでみるキャリア構築

プライマリー・コース修了生の現在の職業 ※令和3（2021）年3月時点

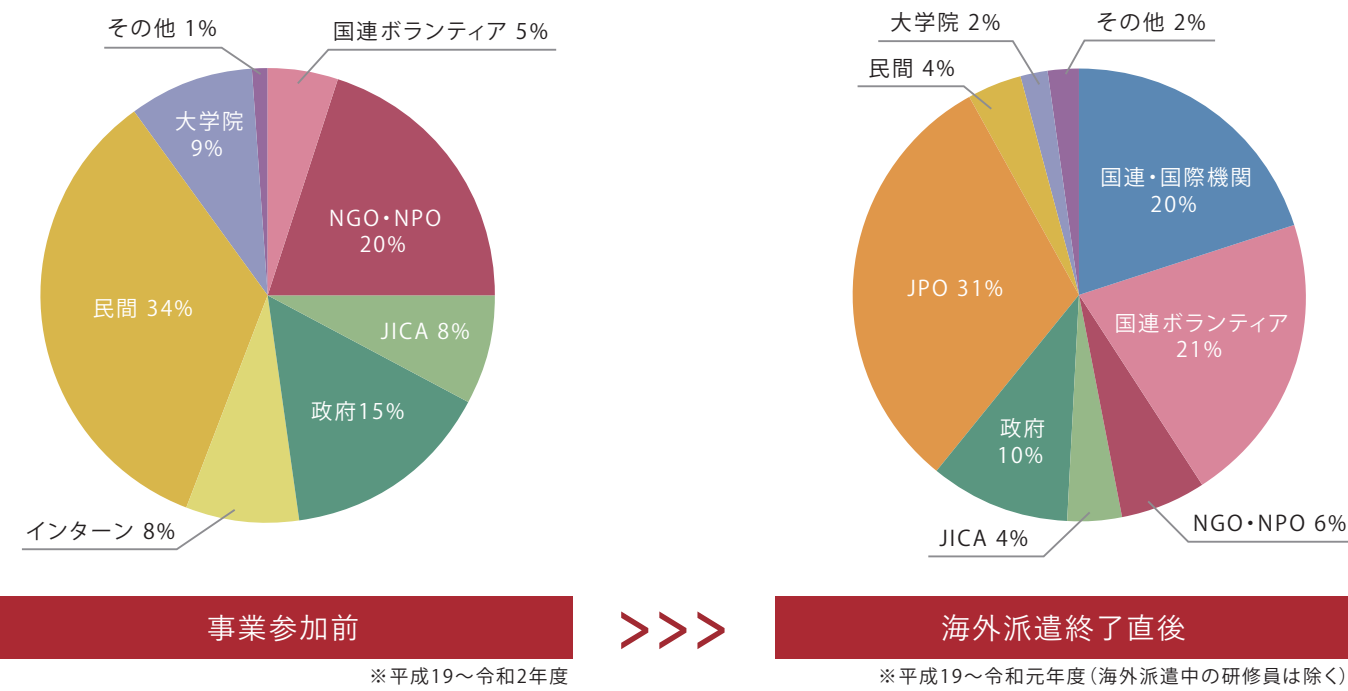


*1 J P O（ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー）とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務することを志望する若手日本人が、一定期間（原則2年間）各国際機関で職員として勤務し、正規職員となるために必要な知識・経験を積む機会を得る制度です。

*2 「その他」には、育児等のキャリア上の理由による活動に従事している方が該当します。

平成19年度～30年度までの修了生179名のデータ(うち、過去1年以上確認のとれない41名を除く)

プライマリー・コース研修員・修了生の事業参加前後の職業



事業参加前のキャリアを見ると平和構築/開発分野に既に関わっていた者も見られるものの、国連・国際機関でのキャリアを積んでいた者はわずかしか見られません。海外派遣後は、国連・国際機関、JPOでのキャリアをスタートさせ、継続させる者が多く見受けられます。

プライマリー・コース修了生が所属する国連・国際機関(平成19年度～平成30年度)

- UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)／14名
 - UNICEF(国連児童基金)／12名
 - UNDP(国連開発計画)／9名
 - WFP(国連世界食糧計画)／5名
 - IOM(国際移住機関)／4名
 - WB(世界銀行)／4名
 - DPO(国連平和活動局)／3名
 - UN Women(国連女性機関)／3名
 - DOS(国連オペレーション支援局)／2名
 - UNFPA(国連人口基金)／2名
 - UNODC(国連薬物犯罪事務所)／2名
 - UNU(国連大学)／2名
- ADB(アジア開発銀行)／1名
 - FAO(国連食糧農業機関)／1名
 - Joint UNDP-DPPA Programme on Building national Capacities for Conflict Prevention(紛争予防のための国家能力の構築に関する国連開発計画(UNDP)政務・平和構築局(DPPA)共同プログラム)／1名
 - OCHA(国連人道問題調整事務所)／1名
 - OHCHR(国連人権高等弁務官事務所)／1名
 - SRSG/SVC(紛争下の性的暴力に関する国連事務総長特別代表事務所)／1名
 - UN-Habitat(国連人間居住計画)／1名
 - UNMAS(国連地雷対策サービス部)／1名
- UNODA(国連軍縮部)／1名
 - UNOPS(国連プロジェクトサービス機関)／1名
 - UNRCO(国連常駐調整官事務所)／1名
 - UNSOM(国連ソマリア支援ミッション)／1名
 - UNV(国連ボランティア計画)／1名
 - WHO(世界保健機関)／1名
 - ICC(国際刑事裁判所)／1名
 - International IDEA(民主主義・選挙支援国際研究所)／1名
 - 日本アセアンセンター／2名

※JPO派遣・UNV契約延長含む(令和3年3月現在)

修了生の国連のポスト

数多くの修了生が、国際機関の本部やフィールドで、責任ある地位について、平和構築・開発援助・人道援助活動の最前線を支えています。フィールドで自分のチームを率いて活躍したり、本部でも責任分野を持って貢献したりするランクであるP5に2名、P4に7名、P3に22名がついて、国際機関の活動を支えて奮闘しています。これらの修了生の方々は、新しい研修員たちがUNV等として国際機関で勤務し始める際に、直近の上司となる階層の方々です。本事業では、すでに修了生と研修員が交流する機会を設けるキャリア構築支援も多々行っていますが、こうした厚重な修了生の方々とのネットワークは、本事業が持つ大きな財産の一つです。

講師修了生の紹介

上記の中間管理職の修了生の方々は、国際機関の多種多様な活動の現場で、自分のチームを率いて、具体的なプロジェクト等に対し責任をもって動かしている人材となっています。非常に重要なポジションであるために、従来は、なかなか研修への貢献のために日本に来ることも簡単ではありませんでした。しかし、オンラインでの貢献となる講師が多数を占める見込みとなった今年度のプライマリー・コースは、こうした修了生の方々に登壇いただくチャンスに恵まれた研修でもありました。その結果、研修員の多様な関心に対応する平和構築・開発援助・人道援助にあたる主要な国際機関で活躍する6名の修了生の方々に講師として登壇いただくことができました。研修員にとっては、現場で直接の上司になるクラスの国連職員の考え方を把握できるだけでなく、自分のキャリア構築のイメージも得られる貴重な機会となりました。以下の修了生の皆さんには、今年度の研修員に本事業後の数年間で、どのようにキャリアを構築していくことができるのかを深く考えるために、非常に刺激的な講演をしていただきました。なお、講師として貢献していただいた6名の修了生に加えて、国連開発計画(UNDP)本部危機局で勤務するモニカ・リジャル氏のオンラインでのご貢献の際には、同氏の同僚である、平成24年度プライマリー・コース修了生で現在紛争予防のための国家能力の構築に関する国連開発計画(UNDP)-政務・平和構築局(DPPA)共同プログラムにてM&E・プログラム専門官として活躍されている藤村梨紗氏と、平成25年度プライマリー・コース修了生で国連開発計画(UNDP)本部危機局にてプロジェクト調整専門官として活躍されている桑田弘史氏の2名に、オブザーバーとして参加していただき、専門性をふまえたコメントでリジャル氏を補佐していただき、研修員にさらなる刺激を与えていただきました。



令和2（2020）年度 プライマリー・コース 講師の修了生

- 大庭 真理枝**（平成19年度修了生）
国連開発計画(UNDP)南スーダン 再統合専門官

鈴木 恵理（平成19年度修了生）
国連児童基金(UNICEF)
東部・南部アフリカ地域事務所子どもの保護専門官
- 副島 知哉**（平成22年度修了生）
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)バングラデシュ
コックスバザールサブオフィス保護担当官

渡辺 愛子（平成20年度修了生）
国連平和活動局(DPO)プログラム管理官
- 馬目 美奈子**（平成21年度修了生）
国連開発計画(UNDP)シリア
経済開発・生計チームリーダー

舩岡 真理（平成25年度修了生）
国連世界食糧計画(WFP)イエメン
サプライチェーン担当官



2007年度



2020年度

事業が目指すキャリア構築



篠田 英朗
HPC代表理事/平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター/東京外国語大学教授

たちの体験談を紹介するとともに、キャリアデザインを継続的に見直していく手助けをしています。研修で得た知識や技能だけで長いキャリアを構築していけるわけではありません。だからこそ、研修で得た経験に基づく気づきや、人と人とのつながりを、長期にわたるキャリア構築の土台にしてほしいと考えています。

キャリア構築は、人事の専門家の方々だけに重要なトピックではありません。本事業では、多数の国連職員を中心とする実務家の方々に講師としてお招きしました。そうした講師の方々には、正規の研修カリキュラムの中で専門的知見を共有していただくだけでなく、キャリア構築に関する経験や考え方を語っていただき、個別的な助言を研修員に提供していただきました。今年度は、新型コロナウイルス感染症で激変した職場環境やワークライフバランスの捉え直し方も、大きなテーマとなりました。

オンライン・サロン～国連機関でのキャリア構築～



2021年2月5日、プライマリー・コース研修員を対象に「国連機関でのキャリア構築」をテーマとするオンラインサロンを開催しました。本サロンは、平和活動を中心とした国連・国際機関でのキャリア構築の考え方の視野を広げる一助としてもらうことを目的として行われました。ゲストには現在国連機関に勤務しているプライマリー・コース修了生で、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の駐日事務所にて渉外担当官として従事されている渡邊温子氏と国連平和活動局（DPO）にて民政官として従事されている森

田愛氏の2名を招き、これまでのキャリア構築の在り方についてプライマリー・コース講師陣と対談を行いました。なお、オンラインサロンについては今年度の事業を通じて、研修期間以外の時期にも不定期で開催してきました。コース期間中に開催された2月5日のオンラインサロンは、研修員にとって遠隔地の修了生の有益な知見を共有する機会となりました。当日は日本人研修員だけでなく、外国人研修員も加わって英語で行われ、様々な意見が飛び交う活発な議論が行われました。

篠田 森田さん、国連での職を得た経験について教えてください。

マラウイでUNVとして働いていたときに、ニューヨークに出張する機会があり、私はその間できるだけ多くの人に会うように心がけました。その時に会った人の一人が現在の上司でした。私は純粋に彼のチーム（平和維持活動の民政官）の仕事に興味がありその内容について知りたかったので、30分ほどの面会の中でいくつかの質問をし、そして話の流れの中で私は自分の経験も少し語りました。それから数ヶ月後、私は彼のチームで募集するポジションがあることを知らされ、応募してみましたところ、面接・筆記試験に合格して現在のポジションを得ました。ニューヨークで様々な人を通じて現在の上司とつながることができたのは幸運だったと思います。

篠田 森田さんがおっしゃったように出会ったことは幸運だったのかもしれませんが、しかし、私は森田さんを際立たせた他の要因があったと思います。振り返ってみて、自分を際立たせた要因は何だと思いますか。

人に対してポジティブな印象を与える、というのはどんな場においても有益だと思います。その意味で、人として基本的な事、例えば謙虚さや礼儀、そして相手の話に傾聴する事などはやはり大事だと思います。更に自分自身の以前の仕事の経験についても彼のチームの仕事と繋げて話すことで、私の経歴と彼の仕事内容との関連性に触れる事ができたので、それも役立ったのかもしれません。

篠田 私たちは、機会が到来するときのために準備をしながら、心をオープンにしておいて、運をつくります。準備は、機会が訪れるまで、何も保証しません。しかし機会が訪れた時に最善を尽くせるように、準備をしておかなければなりません。

森田さんがされたことは本当に素晴らしいと思います。国連でキャリアを築きたいのであれば、常に積極性が必要です。国連開発計画（UNDP）での経験が、森田さんのネットワークやキャリアの構築に役立ったのを大変嬉しく思います。コロナで移動が難しい今、オンライン会議も優れたツールです。地域や国境を越えて誰とでも連絡をとることができます。

篠田 同意見です。どんな状況であっても、常に新しい何かを得ることを考えていたいですね。次は、イエメンで働くという強い決意を持って、それを実現させた舩岡さんからコメントを頂きたいと思います。

ネットワーク構築に関して役に立ったなと思うポイントを共有させていただきたいと思います。個人的な意見ですが、ネットワークの構築は360度の範囲においてすることに価値があると感じています。具体的には、上司、同僚、チームのメンバーですが、人事や外務省、日本大使館も含んでもいいかもしれません。また、ただ仲良くなるだけではなく、仕事を通して信頼で結ばれたネットワークは非常に強いと感じています。そのため、多くの人と会い、一緒に仕事をして強固なネットワーク構築ができる機会を増やしていくことが重要だと考えます。

篠田 舩岡さん、強力なキャリアパスを構築するための素晴らしい洞察をありがとうございます。次に渡邊さんのキャリアについて伺います。

ナショナルスタッフはオペレーションのバックボーンで経験豊富なため、新しい赴任地に着いたとき、ナショナルスタッフから学び、最初の6か月間で彼らと良好な関係を築くことの重要性を強調したいと思います。仕事を円滑に進めるためには、文化的背景を理解しておくことも非常に重要です。

篠田 優れた点をありがとうございます。あなたのキャリアはJPOとして始まったと思いますが、JPOから飛躍して国連での地位を獲得するのに苦労しましたか？

そうですね。JPOの後に新しい職を得ることができませんでした。幸いなことに、当時の職場であった南スーダンでポストが延長されました。その間に、私は応募していたポストの一つにショートリストされ、上司に私の仕事ぶりの照会（レファレンスチェック）が来ました。上司は私を評価してくれたので、レファレンスチェックは問題なく私はポストを獲得することができました。日々の仕事ぶりが次のキャリアにつながります。カギとなるのはあきらめないことです。同じ組織または他の場所で常に機会があります。

篠田 どうして国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の駐日事務所に来ることにしたのですか。

人道支援の現場で働いていると、ある時点で誰もがライフワークバランスを考えるとと思いますが、今回のポストに応募したのはキャリア構築の他にプライベートな事情がありました。現在、渉外関係のポジションは私のこれまで働いてきた専門分野ではありませんが、新たに専門性を広げる機会ととらえ、これからのキャリア構築に役立てていこうと考えています。

篠田 その思いに感心します。同じ組織で仕事を維持しながら、ライフワークバランスについても考慮されている素晴らしいキャリアパスの例ですね。



森田 愛
国連平和活動局（DPO）民政官



小松原 茂樹
国連開発計画（UNDP）マラウイ共和国常駐代表



舩岡 真理
国連世界食糧計画（WFP）イエメン サプライチェーン・オフィサー



渡邊 温子
国連難民高等弁務官（UNHCR）駐日事務所 渉外担当官



ピースビルダーズ特集



平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業の講師・修了生が、世界各地にある平和構築及び開発の現場から、自らの経験を踏まえた生の声をお届けします。

令和2(2020)年度ミッドキャリア・コース／プライマリー・コース講師



ウマル・バ

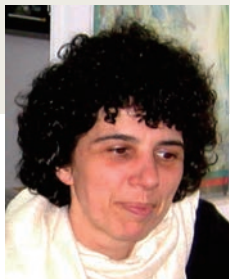
元国連マリ多面的統合安定化ミッション(MINUSMA)ガオ地域事務所長

私は26年以上にわたり国連で働く特権に恵まれました。初めはルワンダ、ブルンジ、カメルーンの国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)で人権担当官として1994年から2006年まで働いていました。その後、国連平

和維持活動局(DPKO)に異動し2006年から2020年まで上級人権担当官と首席政治担当官としてハイチ、スーダン、中央アフリカ共和国で働きました。

もし、本プログラム研修員にアドバイスできることがあるとすれば、キャリアについて2点に焦点をあてることを伝えたいです。1点目はチームビルディングについてです。素晴らしいチームを作ることとはとても重要なことです。メンバーが同じ方向を向きお互いを尊重し合えるような、効率的なチームを持っていれば、とてつもなく大きいゴールを達成すること

令和2(2020)年度プライマリー・コース講師



シモネッタ・ロッシン

国連シエラレオネ常駐調整官事務所(UNRCO)平和・開発アドバイザー

私のキャリアは30年以上前にボランティアとして始まりました。難民と協力し、彼らが受け入れ国で中小企業を設立するプロジェクトを支援しました。難民のビジネススキルを訓練する間に、私は彼らから平和の価値を学び

ました。それ以来、私は世界の異なる地域のいくつかの国で、平和を構築し、持続させるための支援に、私の人生を捧げてきました。私のキャリアを振り返ると、約15年間にわたって平和開発アドバイザー(PDA)とし

もできます。そういうチームはあなたのことを尊重し、あなたのために、あなたとともに、もう一頑張りしてくれるでしょう。チームがいなければあなたは無力で、恐らく大した成果も出せないということを感じておくことは重要なことです。

2点目はローカルパートナーとの交際に関わることです。ローカルパートナーには正直でいることが重要です。あなたが絶対にできないことを約束してはいけません。これはあなたの信用度に関わります。もしあなたができないとよくわかっていることをステークホルダーが要求してきた場合は、できないと真実を伝えることが不可欠です。外交的言葉遣いで本当のことを伝えることはステークホルダーから尊敬を得るためにも重要なことです。時にはそれが困難だったとしても、インテグリティを保つことは最善の判断です。

プライマリー・コースに講師として参加できて光栄でした。HPCの研修はリーダーシップ、プランニング、コンピテンシー・ベースドインタビューなどの分野で能力強化ができるユニークな機会を提供します。国連でのあなたのキャリア構築に役立つことでしょう。

て国連で奉職してきたことは、素晴らしい事だったと感じます。私はPDAとして、信頼構築、社会的結束、対話、和解を行い、紛争分析を発展させ、平和構築のための入り口を探し求めてきました。国際的なキャリアを追求することに興味を持つ人は、困難な状況で働き、職場や家庭における多くの課題に対する革新的な解決策を学び、見つける準備をしておくべきです。広島平和構築人材育成センター(HPC)のプライマリー・コースは、国連での活動に向けた準備を研修員に提供し、分析能力とコミュニケーション能力、チームビルディング、リーダーシップ能力を伸ばすユニークな機会を提供します。私は、リソースパーソンとしてコースをサポートし、経験を共有し、また講師や研修員から学ぶ機会を得たことを誇りに思います。

平成25(2013)年度プライマリー・コース修了生

内海 貴啓

国連世界食糧計画(WFP)アルメニア食糧安全保障分析担当官



小学生時代、阪神大震災で被災した経験から人道・開発分野での仕事に就くことに興味がありました。大学在学中、バックパッカーとして中東を旅していた時、パレスチナで難民や

長く続く占領と向き合う人々と出会ったのを契機に、人道・開発支援への志が再燃しました。その後、大学院で平和構築学を専攻する過程で、パレスチナに1年間留学し、アラビア語を学びながら国際NGOでインターンし、開発キャリアに就くために必要な語学力と現場の経験を培っていきました。修士号を取得後、在エジプト日本国大使館、そしてその後は開発コンサルティング会社で、中東・アフリカにて現場経験を積みました。この2つの異なる立場からの開発援助に関わる経験により、平和構築や貧困問題に政策レベルで関わり、その一方現場レベルでも実践できる組織で働きたいと思うようになりました。そこで、私は外務省の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に参加し、政策レベルから事業実施までに関われるWFPに国連ボランティアとして中東地域事務所に赴任しました。年々難民や飢餓人口が増えるのに比例して人道支援が増加傾向にある状況を目の当たりにし、いかに飢餓に苦しむ人々を減らせるか、考えさせられる日々が続く、その時、人道支援と人々の自立を促す支援をつなぐ仕事の重要性を感じました。その後、JPO(Junior Professional Officer)を含め7年間、中東・北アフリカ地域事務所、スーダン、ローマ本部、バングラデシュ、ウガンダ、ナイロビ地域事務所、アルメニアで勤務し、調査を通じて人道支援と自立支援をつなぐ事業形成に携わっています。

これまで、国連世界食糧計画(WFP)で私は人道・開発・復興支援の事業設計・事業評価のための調査・分析業務に焦点を当て、中東・アフリカにおける紛争・災害後の緊急人道支援や復興支援に携わってきました。人道・開発事業を立ち上げる上ですべて初めに重要なものは、効果的な支援を立ち上げるための適切な情勢分析です。「どこに、どれだけの人数の、どのような人々が、どのような飢餓度合いに陥っており、どのような支援が必要なのか」。それを答えることで支援が始まります。そのWFPがノーベル平和賞受賞したというニュース速報を見たのは、ナイロビ地域事務所でアフリカの各地域事務所と調査事業に関する打ち合わせをしている時でした。ニュースの速報が流れた時、予想外の出来事に世界中のオフィスで衝撃と喜びの声があがりました。私が所属するWFPは世界88か国で飢餓撲滅を目指し、人々の命を救い、そして生活を変える活動を展開しています。「飢餓と闘う努力、紛争影響下の地域における平和実現の条件改善への貢献、そして飢餓が戦争や紛争の武器として利用されないための原動力としての役割を果たした」ことに対して、WFPは2020年ノーベル平和賞を受賞しました。ノーベル賞受賞は、紛争や自然災害に見舞われている国々の最前線で困難な状況下、飢餓に苦しむ方々を支え続けているWFP同僚の日頃の努力の結晶だと思っています。

現在、私はWFPアルメニア国事務所、食糧安全保障分析担当官として勤務しています。アルメニアは、アジアとヨーロッパに挟まれたコーカサス地域にある国です。2020年9月にナゴルノ・カラバフ地域をめぐるアゼルバイジャンとの領土紛争が勃発したため、WFPは同地域からの国内避難民と難民受け入れ地域住民に対する緊急人道支援事業を立ち上げました。私は食糧安全保障分析担当として、避難民の食料不足・栄養状態や貧困度合い、その他多様なニーズに関する世帯調査の分析を行い、根拠に基づいた事業設計を促進することで最も脆弱な避難民や地域住民への迅速な食糧支援の実施に寄与しています。このような調査やそこから得られたデータなどの根拠を基にした事業設計は、より状況とニーズに合った事業形成の根幹であることは勿論、ドナーからより多くの支援を得るためのアドボカシー手段としても重要な役割を果たします。特に新型コロナウィルス感染症(COVID-19)の蔓延では、感染による健康被害や各政府の感染予防措置による社会・経済への影響分析等を事業計画に組み込むことが喫緊に必要とされていました。他方、新型コロナウィルス感染症の蔓延の中で業務を行

っている現在、感染症拡大リスクを最小限にすることに細心の注意を払わなければならないため、調査を遠隔でできるようオンライン電話調査に切り替える等、通常行っていたような方法での調査から、状況に合わせて1つ1つ対応して、困難な状況を乗り切っています。

私が大事にしているものは、辛抱強くゴールに向かっていく強い目的意識です。WFPのような人道支援組織の場合、生活・職場環境が厳しく家族も同伴できないようなハードシブの高い勤務地が多くあります。その中で緊迫感のある緊急支援に従事することはやりがいがある一方、困難に直面することも多くあります。そのような状況でも、困難な状況に苛まれている裨益者のことを考え、同僚と協力しながら1つのチームとして常に前進する姿勢が重要です。さらに、事業の質を向上させていくため、分野横断的に常に学び知識を深めると共に新しいこともどんどん取り入れ、事業を革新していくことが重要だと考えています。

平成28(2016)年度プライマリー・コース修了生

森田 愛

国連平和活動局(DPO)本部
政策・評価・研修部(DPET)民政官



現在、国連平和活動局のニューヨーク本部にて民政官(Civil Affairs Officer, P3)として勤務しています。私が所属する部署は、政策策定や研修等を通して本部から現場の平和

維持軍活動をサポートする部署で、私自身は紛争分析ツール開発、実施支援、評価・改定、そして本ツールを現場スタッフに活用してもらうための研修開催などを担当しています。

平和維持軍が派遣されているアフリカ諸国では近年、地方で勃発するローカルレベルの紛争による犠牲者が多数発生しており、それに伴い平和維持軍の中でも特に地方事務所の紛争解決における役割が見直されています。しかし現状は、効果的な紛争解決に必要な分析力が地方事務所では不足していたり、活動計画が必ずしも強固な分析結果に基づいていなかったり、或いは部署単位の活動計画を単に纏めただけで事務所全体の計画として一体性に欠けている等の問題が存在していました。そこで、平和維持軍の地方事務所における分析及び計画能力強化の為、直面する紛争を事務所全体で包括的に分析し、分析結果を活動計画に反映させるまでの過程を一続きの流れにしたツールを私が所属するチームで作ることになりました。写真は、私がコンゴ民主共和国にて紛争分析ツールの導入・使用説明の為、研修を開催した時のものです。実際にこのツールを学んだスタッフが、周囲の同僚を巻き込んで自分の地域に存在する紛争の分析に適用し、更に紛争解決の戦略立案を手掛けるという効果も見られました。

これまでパキスタン(NGO)、マラウイ(UNDP)、ニューヨーク(DPO)と国と組織を変えながら平和構築活動に携わってきましたが、私が高い充実感を感じるのは一貫して、啓発活動や意識改革、能力強化などを通して自分が関わる人々が成長を遂げチェンジ・エージェントとなる事で、彼らのコミュニティの中で平和の連鎖が生まれていく時です。平和構築分野は非常に幅広く、様々な角度からアプローチすることが可能です。自身の知識・経験・スキルに加え、自分が平和構築のどんな仕事に情熱を感じるのか、心のアンテナを立ておくことで、長い目で見て本当にやり甲斐のある仕事に辿り着けるのではと思います。私自身は平和構築を担う現地のリーダーを育てる事で、世界の平和構築に貢献していければと思っています。その最初のステップとして、自分が関わる人々の意識改革に効果的にアプローチ出来るよう、現在プロコーチングの資格を取得中です。世界のどこかで、平和構築を担う皆さまと何らかの形で会える日を楽しみにしております。

